

私たちはボランティア精神のもと
「市民後見人」として、地域社会に貢献することを目指します。

会報/市民後見人の会 No. 170

2022年1月21日発行 通巻No.180号

創刊2007年2月26日

発行/特定非営利活動法人 市民後見人の会

〒140-0014 東京都品川区大井 1-15-1 品川成年後見センター分室3階

TEL : 080-3912-3259 (通話専用 月～金曜日の10時～15時の間対応します。)

TEL&FAX : 03-6303-8265

◆心身に気を付け活動を！！◆

NPO 法人市民後見人の会理事長 古賀忠壹

オミクロン株の感染拡大が続いている。昨年の会報1月号には、「コロナ禍後(ポストコロナ)を見据えた活動が必要…」と書きましたが、今朝の新聞(1月16日)によれば15日までのコロナ感染者累計は、全国で1,860,224人(前日比+25,742人)、本会の活動拠点である品川区で12,479人(同+105人)になりました。

数日前、49号(被保佐人・男性)の正担当者からコロナの影響で、「月末に予定していた面会が再び中止になった」と副担当の私に電話があった。男性は87歳、奥多摩地区の施設で生活している。年末の26日、一日かけて「10分間の面会」をしてきた。東京の外れの山の中だから寒かったが、男性の笑顔がうれしかった。今回は、施設に電話して本人の様子を聞くことになる。訪問中止になっても雑用はあるが、正担当がてきぱきこなしてくれる。

また、8日、13日には、やはり副担当をしている44号(被成年後見人・女性)の住居(マンション)売却関連で正担当と一緒に処分品の選別をしたり不動産業者に会った。女性は90歳。在宅で見守ってきたが、昨年11月から区内の特養ホームに”運良く”入所できた。年金だけで生活を維持するのが難しく、年を跨いでの売却作業はまだ続くが、正担当が頑張ってくれるので、頼もしい。

こんな具合で、早くも新年の半月が過ぎていった。私同様に各担当者も、コロナ禍の中、戸惑いながらも元気に活動を続けておられることでしょう。常にご自身の健康に気を付けながら、ここはしっかりと踏ん張ってください。困難な状況の今こそ「市民後見人」の意地を示そうではありませんか。

来月26日からは、本会主催の「市民後見人養成講座」が始まります。会員各位は、受講希望者を発掘し、応募を勧めてください。「認知症になっても安心して暮らせる社会」を築く入り口は、講座を受講することからです。ご協力を！！

テレビやラジオは、海底火山噴火の関係で気象庁が本日未明に発表した「津波警報」関連ニュースで、てんやわんや。明日は、阪神大震災から27年です。

◆監督人・後見人等連絡会速報◆

本会の後見活動を監督している品川区社会福祉協議会品川成年後見センターと本会理事との監督人・後見人等連絡会が次のとおり開催されました。



日 時：1月17日（月）15：00～16：00

場 所：品川区社会福祉協議会 10階ボランティア室

参加者：品川成年後見センター4名 本会7名

古賀理事長の挨拶により開会し、次に高原事務局長より本会の現況説明がなされました。本題に入り、斉藤後見部会長より現在本会の後見活動が抱えている以下のような様々な課題が出され、それらについて討議を行い、又、宮本監督人からは死後事務の注意点等が述べられ、充実した1時間でした。詳細は次号にて報告予定です。

（本会からの課題）

- 付加報酬の申請の可否について（資力のない人、身上保護での申請）
- 商品券（品川区地域振興券）の扱い
- 通帳の取り扱い、保管（解約したもの）等

（監督人からの連絡事項）

- 死後事務で、相続人が確定するまでは相続財産を使わない
- 引き渡しに際し、相続財産の内現金は、通帳入れて残さない
- 新規後見人等候補者案件が1件予定（1月の会議で決定）



◆2021年度12月度理事会報告◆

1. 開催日時 2021年12月20日(月)17時30分～19時30分
2. 開催場所 荏原第五地域センター第3集会室
3. 出席理事 朝倉鈴子、大金修、金城清、古賀忠壹、斉藤裕二、杉谷徹夫、杉山麻里子、高原三平、馬庭俊一郎各理事 (理事総数 10名)
4. 欠席理事 内山恵子
5. オブザーバー 國枝園子監事 (敬称略)
6. 議事

<審議事項>

- ① 新規案件(53号)の正・副担当者について決議した。

<協議事項>

- ① 15周年記念事業について協議した
- ② 2022年度総会に向けての日程等について協議した。なお、6月11日(土)を総会日とした。

<報告・連絡事項>

- ① 今後のコロナ対策について以下の連絡があった。(古賀)
 - ・10月～11月と感染者数は治まってきたが、11月末に変異株オミクロン感染者が国内で初めて確認された。そんな状況下、本会は従来の対策を踏襲することとした。
- ② 2021年度業務指導委員会(昨年12月6日)について報告があった。(高原、斉藤)
- ③ 中長期日程(2022年1月～6月)について連絡があった。(高原)
- ④ 情報交換会(11月20日)について報告があった。(斉藤)
- ⑤ 2021年度市民後見人養成講座について日程確認があった。(杉谷)
- ⑥ スキルアップ講座(12月15日)について報告があった。(杉谷)
- ⑦ 支援員活動状況について報告があった。(高原)
- ⑧ 会報12月号についての概要報告があった。(金城)

<今後の予定>

- ・1月17日(月) 監督人・後見人等連絡会
- ・1月17日(月) 理事会
- ・1月24日(月) 月曜カフェ
- ・2月9日(水) スキルアップ講座 (記 高原三平)

新しい年を迎えました。しかしコロナ禍の再拡大で気持ちが晴れることはありません。外出を控えることは当然でしょうが、ある専門家が「家に閉じこもっていると高齢者のうつ化が進む」と言っていました。感染に注意した上で人との交流も大事だとつくづく感じます。

認知症医療の第一人者・長谷川和夫さん(聖マリアンナ医大名誉教授)が昨年11月、亡くなりました(享年92歳)。2017年に自身が認知症になったことを公表した長谷川さんは、認知症当事者としてこう語っていました。新聞記事から引用します。「『認知症は特別な病気ではなく暮らしの障害。暮らしというものは周囲の人とのかかわりによっていくらかでも改善できる』と周囲の人たちの役割の大切さを指摘した」(村田拓也「毎日新聞」2021・12・16)。

古賀理事長の巻頭言にあるように「心身に気を付け活動」を進められたらと思います。(金城 清)